

第3章

島根県の高校2年生の進路意識における「教職」

津多 成輔

【ポイント】

- 「高校生の進路意識に関する調査」は、島根県の公立「進学校」6校を対象に高校生活の3年間で追跡的に調査する悉皆のパネル調査である。
- 高校入学（Wave1）時、高校2年進級（Wave2）時のいずれも、教職を第一希望とする高校生は約1割、検討職種とする高校生は約2割である。
- （医療関係職に次いで、）教職は、高校生の約1割が第一希望する人気の職業であるが、高校生全体にとっては「人気がある仕事」としてイメージされていない。

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、本報告書の第一部で報告されている教育人材育成プロジェクトの実施校6校の高校生の進路意識に関するデータを収集することで、第一に教育人材育成プロジェクトにおけるEBPM (Evidence Based Policy Making) を推進するための基礎的な知見を得ることを目的としている。これまでの教育人材育成プロジェクトでは、参加者に対する「プロジェクト実施後アンケート調査」のみを実施していたという制約から、プロジェクト参加者に関するデータは得られるものの、各プログラムに参加しなかった者についての情報が不足している状況にあった。具体的には、プロジェクトの各取り組みへの非参加者の進路意識を把握できておらず、生徒が教職を志向するきっかけは何なのか、各取り組みに参加する生徒との差は何なのか、といった点については明らかにできていないことに課題があった。

このような課題を踏まえて、プロジェクトの対象校に在籍する生徒を悉皆で対象とする調査を企画した。具体的には、上記のプロジェクトの参加校に2024年度に入学した高校生を対象とした悉皆のパネル調査「高校生の進路意識に関する調査」を開始しており、2026年度までの3年間で全4回の質問紙調査を予定している。プロジェクトの参加校はいずれも近年の卒業生の多くが大学に進学する「進学校」である。第一回 (Wave1) 調査は、2024年6月21日から7月31日にかけて既に実施済みであり、その調査で得られたデータの分析結果の一部は、『「教育人材育成プロジェクト」(2024年度) 実施報告及び「高校生調査の進路意識に関する調査」の分析結果(第1次) 報告書』(津多・永島 2025a) において報告している。本報告書は、第二回 (Wave2) 調査で得られたデータの分析結果を報告するものである。なお、本調査の実施を含む一連の研究は、島根大学研究倫理審査委員会の承認(受付番号: R502) を得ている。

(2) 調査の対象・実施時期・内容・有効回答率

調査実施時期、調査対象、調査方法・調査内容は下記のとおりである。

①調査実施時期

第一回 (Wave1) 調査 [高1調査]: 2024年6月21日から7月31日

第二回 (Wave2) 調査 [高2調査]: 2025年5月10日から7月2日

第三回 (Wave3) 調査 [高3調査①]: 2026年5月から6月を予定

第四回 (Wave4) 調査 [高3調査②]: 2026年11月から12月を予定

②調査対象者

教育人材育成プロジェクトの実施校6校に2024年度に入学した890名

③調査方法

Google Forms を用いた Web 調査

④調査内容

各調査回の質問項目については、以下の表3—1に示した。表3—1では、各調査回で設定された設問には「●」を、除外された設問には「—」を記載した。

表3—1 各調査回の質問項目一覧

質問項目	Wave1	Wave2	Wave3	Wave4
性別	●	●	●	●
居住地	●	●	●	●
所属校	●	●	●	●
高校進学理由	●	▲	—	—
高校合格時の気持ち	●	▲	—	—
小学校・中学校の頃の高校卒業後の進路希望	●	▲	—	—
小学校の頃の経験・習慣	●	▲	—	—
中学校の頃の登校忌避感情	●	▲	—	—
中学校の頃に所属した部活動	●	▲	—	—
高校の教育課程	—	—	●	●
教育に関するボランティアへの参加経験	—	—	●	●
通塾	●	●	●	●
学習時間	●	●	●	●
校内での成績の位置づけ	●	●	●	●
志望職種	●	●	●	●
希望する学校種・教科	●	●	●	●
志望職種を考え始めた時期	●	●	●	●
職業選択の際に重視すること	●	●	●	●
進学希望地の有無	●	●	●	●
進学希望地	●	●	●	●
現在の高校卒業後の進路希望	●	●	●	●
進学を希望する学校情報	●	●	●	●
大学選択基準	●	●	●	●
進路の悩み	●	●	●	●
進路選択の際に参考にすること	●	●	●	●
奨学金利用の見込み	●	●	●	●
進学時の金銭援助の期待度	●	●	●	●
進路についての保護者から期待	●	●	●	●
性別役割分業意識	●	●	●	●
地元志向性	●	●	●	●
一般的な社会意識	●	—	—	●
理想の分配原理	●	●	●	●
現実の分配原理	●	●	●	●
将来の居住地希望	●	●	●	●
信頼している他者	●	●	●	●
「学校の先生」の仕事のイメージ	●	●	●	●
「学校の先生」のイメージ	●	●	●	●
教職に関する知識	—	—	●	●
学校教育に対する考え	—	—	—	●
学校適応	●	●	●	●
高校での学びの位置づけ	●	●	●	●
高校生活の満足度	—	—	—	●
「共生社会」という言葉の認知	●	●	●	●
「教育人材育成プロジェクト」の認知	●	●	●	●
「教育人材育成プロジェクト」への参加経験	—	●	●	●
「教育人材育成プロジェクト」への参加理由	—	●	●	●
進学先情報の提供への同意	—	—	●	▲
追跡調査への同意	—	—	●	▲

▲：1つ前の調査で調査協力が得られなかった回答者に設問を表示

なお、本調査で得られたデータは、大学訪問や各校の取り組みの実施後アンケート調査の回答者との照合が可能な形をとっている。

④有効回答率

各調査回の有効回答数・回答率については、以下の表3—2に示した。表3—2では、未実施の調査回については「—」を記載した。なお、Wave1とWave2のいずれも回答されたケースは694であり、対象者数に対して78.0%の割合であった。

表3—2 各調査回の有効回答数・有効回答率

	Wave1	Wave2	Wave3	Wave4	Wave1-2
有効回答数	793	759	—	—	694
有効回答率	89.1%	85.3%	—	—	78.0%

2. 分析の観点

本調査の単純集計結果は巻末に一覧を収録しているが、各章では、教職志望を継続する高校生の特徴(第4章)、地域移動と志望職種に関連(第5章)、進路の悩みと相談先の性差(第6章)を主たるテーマとした分析結果が提示される。本章(第3章)ではこれらの分析の前提となる、本調査対象者の基本的な情報と将来の志望職種、「学校の先生」のイメージについて単純集計結果から検討しておきたい。

3. 調査対象者の基本属性

第二回(Wave2)調査の対象者の基本属性については、表3—3に示した。表3—3によれば、通塾率は34.1%であり、調査対象校が「進学校」であることと高校2年生の通塾率の全国平均が36.3%であること(文部科学省2024)を踏まえると、やや低い値であると考えられる。また、校内での成績の位置づけについての自己認識は、「下の方(1)」であるとする割合が5.7%であるなど、成績が他者と比較して相対的に低いと感じる生徒がやや多いという結果であった。また、奨学金の利用見込みがある割合が26.5%、進学時の金銭的援助について「あまり援助を期待できない」と「全く援助を期待できない」を合わせる8.7%であるなど、一定数の調査対象者が経済的に厳しい状況にあることが推察される。

4. 志望職種としての教職

ここでは志望職種としての教職の全体の中での位置づけについて確認したい。表3—4には、第一回(Wave1)調査及び第二回(Wave2)調査について、職種別に志望職種(第一希望)として該当する割合を示した。

表3—4によれば、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員」は、第二回(Wave2)調査で12.5%となっており、全体の1割強が教師を志望している状況であった。また、第一回(Wave1)調査では、9.7%であったことを踏まえると、高校入学[第一回(Wave1)調査]時よりも教職志望者の割合はやや上昇しているといえる。ただし、この傾向は上位に位

表 3—3 調査対象者の基本属性

性別 (N=720)						
男性		女性		答えたくない		
45.4%		53.2%		1.4%		
通塾 (N=747)						
通っている			通っていない			
34.1%			65.9%			
校内での成績の位置づけ (N=759)						
1 (下の方)	2	3	4 (真ん中)	5	6	7 (上の方)
5.7%	13.0%	19.2%	26.5%	24.5%	8.4%	2.6%
奨学金利用の見込み (N=747)						
利用する		利用しない		分からない		
26.5%		9.8%		63.7%		
進学時の金銭援助の期待度 (N=739)						
確実に援助を期待できる		おそらく援助を期待できる		あまり援助を期待できない		全く援助を期待できない
31.5%		59.8%		7.6%		1.1%

置く「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」(Wave1 : 17.0%⇒Wave2 : 22.2%) や「国家公務員、地方公務員」(Wave1 : 7.0%⇒Wave2 : 8.4%)、 「(食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者」(Wave1 : 4.5%⇒Wave2 : 6.7%) などでも同様にみられた。その一方で、「特に就きたい職業はない」が第二回 (Wave2) 調査で 16.6%と、第一回 (Wave1) 調査の 23.5%から大きく減少している。以上の結果は、高校入学 [第一回 (Wave1) 調査] 時から、高校 2 年進級時 [第二回 (Wave2) 調査] にかけて、志望職種 (第一希望) が明確化しつつあることを示していると解釈できる。

また、第一志望職種の順位 (Wave2) については、「特に就きたい職業はない」(16.6%) を除けば、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員」(12.5%) は、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」(22.2%) に次いで第 2 位となっており、志望者が相対的に多く、客観的には人気の職業であると解釈できる。

また、第一希望の職種だけでなく、将来の職業として検討しているものまで含めると、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員」は、第二回 (Wave2) 調査で 24.2%となった。こちらは第一回 (Wave1) 調査 (23.8%) と比較して横ばいであるといえる。

表3—4 職種別の第一志望割合 (Wave2 の値で降順)

職種	割合	
	Wave1 (N=784)	Wave2 (N=748)
薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師	17.0%	22.2%
特に就きたい職業はない	23.5%	16.6%
(幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員	9.7%	12.5%
国家公務員、地方公務員	7.0%	8.4%
(食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの) 技術者	4.5%	6.7%
民間企業の社員	5.6%	5.9%
医師、歯科医師、獣医師	1.8%	3.4%
企業の経営者	4.1%	2.9%
介護職員、理容師、美容師、調理師、飲食店主、旅館主、居住施設管理人	4.2%	2.7%
小説家、芸術家、音楽家、俳優	3.6%	2.7%
研究者	3.4%	2.4%
(福祉相談員や保育士などの) 社会福祉専門職業従事者	4.5%	2.4%
自衛官、警察官、海上保安官、看守、消防員、警備員	3.1%	2.0%
公認会計士、税理士、社会保険労務士	0.6%	1.3%
(裁判官、検察官、弁護士、弁理士、司法書士などの) 法務従事者	1.4%	1.3%
(販売店、小売店、卸売店、保険代理店、不動産屋などの) 店主・店員	1.3%	1.3%
図書館司書、学芸員	0.8%	1.1%
大工、左官、畳工、配管工、内装工、電気工事作業員、土木作業員、採鉱員	1.3%	1.1%
農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家	0.9%	0.9%
その他 (自由記述)	0.6%	0.5%
国会・地方議員	0.9%	0.5%
鉄道・バス・トラック・タクシー・船舶・航空機の運転 (操縦) 士	—	0.5%
工場作業員、修理工、検査工、塗装工	0.0%	0.1%
運搬作業員、清掃員、包装作業員	0.3%	0.1%
スポーツ関連	0.1%	0.1%

※「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」は「薬剤師」(2.8%)、「保健師、助産師、看護師」(9.4%)、「医療技術者、栄養士」(9.5%)、「指圧師、鍼灸師」(0.5%)の合計、「国家公務員、地方公務員」は「国家公務員」(2.4%)、「地方公務員」(6.0%)の合計である。Wave2では、職種を細分化し選択肢を設定したがとの比較のためそれぞれをまとめて割合を掲載した。また、「スポーツ関係」については、「その他 (自由記述)」の選択肢で一定の割合を占めたことから、Wave2の集計の際に新たにカテゴリを設けた。

5. 教職に対するイメージ

表3—5には「学校の先生」の仕事のイメージに関する項目の平均値を示した。平均値の算出にあたっては、「とてもあてはまる」を4、「まああてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を2、「全くあてはまらない」を1とした。

表3—5によれば、第一回 (Wave1) 調査及び第二回 (Wave2) 調査のいずれにおいても「忙しい仕事」、「苦勞が多い仕事」、「子どもの人生に関わることのできる仕事」、「責任が重い仕事」、「子どものためになる仕事」、「世の中のためになる仕事」といったイメージが該当しやすく、「人気がある仕事」、「やりたいことが自由にできる仕事」、「休みが多い仕事」といったイメージに該当しにくいという結果となった。

表3—5 「学校の先生」の仕事のイメージの平均値（Wave2の値で降順）

「学校の先生」の仕事のイメージ	Wave1 (N=781-785)		Wave2 (N=731-740)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
忙しい仕事	3.73	0.568	3.77	0.474
苦勞が多い仕事	3.73	0.562	3.75	0.496
子どもの人生に関わることのできる仕事	3.70	0.575	3.74	0.512
責任が重い仕事	3.66	0.614	3.67	0.551
子どものためになる仕事	3.68	0.558	3.67	0.556
世の中のためになる仕事	3.55	0.596	3.53	0.580
みんなから尊敬される仕事	3.08	0.788	3.05	0.773
高い学力を有する人が就く仕事	3.00	0.801	2.96	0.779
楽しい仕事	2.62	0.853	2.62	0.802
給料が高い仕事	2.61	0.833	2.61	0.774
人気がある仕事	2.24	0.801	2.38	0.818
やりたいことが自由にできる仕事	2.13	0.811	2.11	0.778
休みが多い仕事	1.73	0.744	1.80	0.754

6. まとめ——教職に対する意識

調査対象校において、教職を第一希望とする割合は全体の約1割、教職を検討しているものまで含めると約2割であり、この傾向は、第一回（Wave1）調査と比較して大きな変化がなかったと見てよい。教職を希望する高校生の割合については、鳥取県においても同様の傾向が報告（津多ほか 2024；津多・永島編 2025b）されており、上記の傾向は山陰地域の高校生の特徴として捉えることができる。

ただし、高校入学〔第一回（Wave1）調査〕時から、高校2年進級時〔第二回（Wave2）調査〕にかけて教職を第一希望とする高校生の割合に変化がないからといって、同一人物が教職志望を継続しているわけではない。第4章の議論を一部先取りすることになるが、高校入学〔第一回（Wave1）調査〕時において教職を検討している者のうち約3割の高校生が教職を検討しなくなっている。（第一希望では2割弱）。第4章では、このような高校生の特徴を分析した結果が提示される。

「学校の先生」の仕事のイメージについては、「忙しい仕事」、「苦勞が多い仕事」、「責任が重い仕事」といった多忙に関わる項目と「子どもの人生に関わることのできる仕事」、「子どものためになる仕事」、「世の中のためになる仕事」といった社会的意義に関わる項目が該当しやすいという結果となった、一方で、「人気がある仕事」、「やりたいことが自由にできる仕事」、「休みが多い仕事」といった項目は該当しにくいといった結果となった。本調査においても高校生の約1割が希望職種とする教職は客観的にみれば人気の職業であるが、主観的水準においては「人気がある仕事」ではないようである。

[文献]

- 文部科学省, 2024, 「令和5年度 子供の学習費調査 3学年(年齢)別, 所在市町村の人口規模(学科)別の学習費支出状況」(2025年3月15日取得, https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00400201&tstat=000001012023&cycle=0&tclass1=000001224200&tclass2=00001224201&tclass3=000001224328&stat_infid=000040233667&tclass4val=0).
- 津多成輔・長岡素巳・縄田裕幸・吉田博幸, 2024, 『地方圏の高校生に対する「教師の仕事」の魅力の発信——志望段階から養成段階における接続の「質」の向上の取り組み——報告書』島根大学教育学部.
- 津多成輔・永島郁哉編著, 2025a, 『「教育人材育成プロジェクト」(2024年度)実施報告及び「高校生の進路意識に関する調査」の分析結果(第1次)報告書』島根大学教育学部.
- , 2025b, 『「『未来の教師』育成プロジェクト」(2024年度)実施報告及び「高校生の進路意識に関する調査」の分析結果(第2次)報告書』島根大学教育学部.